

教材研究ノート№3-A-15

≪学習問題≫

1こ23円のみかんを34こ買います。

何円になりますか。

①本時を構想する上でポイントとなる素地

○問題解決のための知識・技能

・3年「1けたをかけるかけ算の計算」で，2位数×1位数，3位数×1位数の計算の仕方を学習している。

○既習とつなぐ見方・考え方

・23×30＝(23×3)×10と考えて計算できることを学習している。

○共同追究でのゆさぶり

・位の数だけで計算する経験は，「1けたをかけるかけ算の計算」に続いて2回目。

○ゆさぶりに対応する経験

・十進位取り記数法で，十の位の3は30を表すことを学習している。

≪学習問題≫

主眼

授業計画･実施記録

②見通し：23×34の×34は，このままでは計算できない。

 →　23×30を(23×3)×10と考えたように，34を30と4に分解して考えればよさそうだ。

１　課題とまとめを一体のものとしてとらえるには

②学習課題：23×34の筆算のやり方を，34を30と4に分けて考え，やり方を図や絵，式で説明しよう。

③個人追究：計算の仕方を考え，図や絵，式で説明する。

④共同追究前半（解法の比較検討）

「どのやり方にも共通していることは何だろう？」

→「どれも，十の位と一の位を分けて計算している。」

④共同追究後半（思考を深める）

「23×3は，何を表しているのだろう？」

→「3は，十の位の3だから，23×3は，23×30と同じ意味で計算している。」

　「十の位の数だけで計算しているが，10が3つ分ということだから，23が3×10個あるということ。だから，一の位には0が入ることになる。」

⑤まとめ（子どもの言葉で）

・ひっ算も，十の位と一の位を分けて考えることができる。

・ひっ算のように，縦に位をそろえて計算すると，位がそろって計算しやすい。

⑥定着･活用問題

次の計算をひっ算でしましょう。

(1)　21 (2) 12 (3) 11 (4) 23　　　(5)　　24

　 ×32　　　 ×42 ×67 ×23　　　　　 ×31

＜本時の展開に当たっての留意点＞

・課題把握の場面で，2位数×1位数の計算の仕方を想起させ，「十の位と一の位に分けてかけ算して，後でたす」ことを確認してから，本時の学習問題を提示するとよい。

・絵や図と，式を一体化して扱い，位を明確にして23×3の意味を確認することが大切である。

≪定着・活用問題≫

【板書計画】